

高校歴史総合プリント（過去問類似）
歴史総合（2025年～の共通テスト本試験）
No.3

名前

得点

/9

問1 1920年代の日米関係に関して述べた次の文の空欄 [イ] に入る語句として最も適当なものを答えよ。1924年にアメリカ合衆国で排日移民法が制定され、日本からの移民が事実上全面的に禁止されたことは、日本国内に強い衝撃を与えた。その背景には、前年の1923年に日本で発生した [イ] に際して、アメリカ合衆国から多額の義捐金や救援物資が送られ、一時的に対米感情が好転していたことがあったため、この法律の制定による失望と反発はより大きなものとなった。（2026年 全国公立入試

類似）

1. 虎ノ門事件 2. 関東大震災 3. 桜島大噴火 4. 森戸辰男事件

問2 江戸時代後期、仙台藩医であったある人物は、民衆が味噌や塩のように貴重な輸入品を日常的に大量消費している現状を問題視し、長崎貿易における輸出入の制限などを訴えた。のちに老中田沼意次に蝦夷地の開拓を建言したことでも知られる、この人物は誰か。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 杉田玄白 2. 青木昆陽 3. 本多利明 4. 工藤平助

問3 室町幕府8代将軍の妻である日野富子は、夫が政務を放棄した時期に幕政に関与し、大名らへの資金貸し付けなどの金融活動を行った。彼女が資金を貸し付けた「自軍の大名小名」が関与し、将軍の後継問題や守護大名の対立を背景に京都を中心に発生した、室町幕府の衰退を決定づけた戦乱は何か。（2026年 全国公立入試 類似）

1. 永享の乱 2. 嘉吉の乱 3. 応永の乱 4. 応仁の乱

問4 2世紀のローマ帝国において、ダキアやメソポタミアへの遠征により帝国領土を最大に広げたトラヤヌス帝や、ブリタニアに長城を築いたハドリアヌス帝など、優れた治世によって「ローマの平和（パクス＝ローマーナ）」の全盛期をもたらした5人の皇帝たちの総称を何というか。（2026年 全国公立入試 類似）

1. 五賢帝 2. 貴族派 3. 三頭政 4. 平民派

問5 19世紀前半、アブデュルメジト1世が発布したギュルハネ勅令を契機として、オスマン帝国で開始された近代化改革を何というか。行政、軍事、法制などの広範な分野で西洋化が推進されたが、イスラームの礼拝の儀礼に配慮してつばの無いトルコ帽（フェズ）が導入されるなど、伝統との調和も図られた。（2025年 全国公立入試 類似）

1. ニザームジェディド 2. タンジマート 3. カヌーンエスサシ 4. イルティザーム

問6 第一次世界大戦後の講和会議において、日本が主張した山東半島の旧ドイツ権益の継承などが認められたことに対し、1919年に中華民国の北京の学生らから始まり、中国全土へと広がった反帝国主義・反日の愛国運動を何というか。（2026年 全国公立入試 類似）

1. 三・一運動 2. 五・四運動 3. 非暴力運動 4. 不服従運動

問7 1990年代初頭、日本は多額の資金援助を行ったものの、国際社会から人的貢献の不足を批判された。この批判を契機として、1992年に国連平和維持活動協力法（PKO協力法）が制定され、自衛隊の海外派遣が開始されることとなった。この一連の政策転換の契機となった、1990年にイラクのクウェート侵攻を発端として勃発した紛争は何か。（2026年 全国公立入試 類似）

1. 湾岸戦争 2. 朝鮮戦争 3. 中越戦争 4. 中東戦争

問8 第一次世界大戦後のイタリアにおいて、ムッソリーニ率いる政権が推進した、思想・言論の統制や、自給自足を目指した国産衣服の生産奨励、フランスからのファッション影響の排除などを特徴とする、全体主義的な政治思想や体制を何というか。

（2025年 全国公立入試 類似）

1. ミリタリズム 2. アナーキズム 3. ナチズム 4. ファシズム

問9 明治政府は、近代化を進めるなかで欧米から多くの専門技術者を招いた。このうち、相次ぐ大規模な洪水に対処するためオランダから招聘され、木曾三川の分流工事や各地の砂防・植林事業を指導し、日本の近代的な河川・砂防技術の基礎を築いた人物は誰か。（2026年 全国公立入試 類似）

1. コンドル 2. クラーク 3. デ・レーケ 4. フェノロサ

答え合わせ・解説 No.3

| | | |
|----|----------------|---|
| 問1 | 答え 2 関東大震災 | 1923年9月に発生した関東大震災に際して、アメリカ合衆国からは官民を挙げて多額の義捐金や医療物資などの支援が寄せられ、日本国内では感謝の念と対米友好ムードが高まっていた。しかし、翌1924年にアメリカで排日移民法が制定され、日本からの移民が事実上全面的に禁止されたことで、日本国民の対米感情は急速に悪化し、大正期の協調外交に影を落とすこととなった。 |
| 問2 | 答え 4 工藤平助 | 仙台藩医であった工藤平助は、著書において民衆が貴重な輸入品である砂糖を日常的に大量消費している現状を問題視し、長崎貿易における輸出入の制限を訴えて外貨や物品の流出を防ぐべきだと主張した。また、ロシアの南下に対抗して蝦夷地の開拓や交易を提言した『赤蝦夷風説考』を著し、時の老中田沼意次に影響を与えた。 |
| 問3 | 答え 4 応仁の乱 | 日野富子が資金を貸し付けた「自軍の大名小名」が参加した戦いは、将軍後継問題や守護大名の対立から発展した応仁の乱です。富子の金融活動は、この戦乱において自派の経済的支援や幕府財政の維持という側面を持っていました。鎌倉公方の滅亡などの他の戦乱とは直接関係しません。 |
| 問4 | 答え 1 五賢帝 | ローマ帝国は、1世紀末から2世紀末にかけてのネルウァ、トラヤヌス、ハドリアヌス、アントニヌス=ピウス、マルクス=アウレリウス=アントニヌスの5人の皇帝の時代に最盛期を迎えた。この時代は五賢帝時代と呼ばれ、特にトラヤヌス帝の時代に帝国の領土は最大となった。 |
| 問5 | 答え 2 タンジマート | 19世紀前半、オスマン帝国ではヨーロッパ諸国の進出に対抗するため、西洋化を取り入れた国家の再建を目指す近代化改革が開始された。アブデュルメジト1世によるギユルハネ勅令（1839年）によって本格化したこの改革は、行政、軍事、司法、教育など多岐にわたる分野で近代的な制度を導入した。一方で、伝統的なイスラームの価値観や礼拝の作法（額を床につけるため、つばのある帽子は不都合であること）に配慮し、つばの無いトルコ帽（フェズ）を官僚や軍人の制服として採用するなど、西洋化と伝統の妥協点を探る試みもなされた。 |
| 問6 | 答え 2 五・四運動 | 第一次世界大戦後の1919年、パリ講和会議における山東問題（二十一カ条要求の承認など）を契機として、北京から始まった抗議運動は五・四運動である。この運動は中国全土の都市に波及し、日本製品のボイコットなどが展開された。時系列としては、1923年の関東大震災や1925年の日ソ国交樹立などよりも前に発生している。 |
| 問7 | 答え 1 湾岸戦争 | 1990年のイラクによるクウェート侵攻を機に勃発した湾岸戦争において、日本は多額の資金援助を行ったが、人的貢献がないとして国際的な非難を浴びた。この経験から、日本政府は資金協力にとどまらない人的な国際貢献の必要性を認識し、1992年に国連平和維持活動協力を法を制定して自衛隊の海外派遣に踏み切ることとなった。 |
| 問8 | 答え 4 ファシズム | イタリアでは、第一次世界大戦後の社会不安を背景に、ムッソリーニ率いるファシスト党が台頭し、ファシズム体制が確立された。この体制下では、国家による強力な統制が行われ、経済面では自給自足（アウトアルキー）を目指して国産衣服の生産が奨励された。一方で、フランスなどの他国からの文化的影響は排除の対象となった。 |
| 問9 | 答え 3 デ・レーケ | 明治政府は、日本の急峻な地形と大雨による洪水被害に対応するため、オランダから技術者を招聘した。彼は河川の下流部における改修だけでなく、水源地である山林の砂防工事や植林の重要性を説き、日本の治水事業に多大な貢献を残した。 |